

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4年 2月 28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092100050		
法人名	株式会社 葵		
事業所名	あおい介護センター 梅香丘温泉グループホーム		
サービス種類	認知型対応型共同生活介護		
所在地	和歌山県日高郡みなべ町埴田1540番地67		
自己評価作成日	令和4年2月10日	評価結果市町村受理日	令和4年4月7日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	(基本情報リンク先URLを記入)
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カロア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘4-4-33
訪問調査日	令和4年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは2ユニット制となっており定員は18名の事業所となります。入居されている皆様の生活スタイルを重視し、一人ひとりが落ち着いた環境で安心して暮らすことができるよう支援しています。ご家族、地域の方々との協力体制も重視し、日常の家事も利用者様と一緒にするなど、一人ひとりの能力に応じて自立したを共にして頂けるように、心地良い居場所作りにも努めております。日課として、ラジオ体操やリハビリ体操・脳トレクやゲーム的なレク等の多種多様なレクリエーションも取り入れており、敷地内の畑では農作物を植え、一緒に収穫をして調理をして提供も行ってしております。温泉も引いておりますので、普段の入浴は温泉浴となります。海も近く、自然豊かな環境で毎日の生活を過ごして頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

あおい介護センター梅香丘温泉グループホームは、日本一のブランドを誇る「南高梅」の梅林が広がり、黒潮臨む海岸線は風光明媚な景観を誇るみなべ町にあります。法人の理念に「気持ちに向き合い寄り添う」「その人らしいあり方を大切にする」「切れ目なく望む暮らしを支える」を掲げ、認知症を患っても住み慣れた地域で安心して生活が送れるように支援し、特に入居されている利用者様には不安なく生活が送れるように利用者様、一人一人の心のニーズを推察できるように心がけられています。コロナ禍においても毎月、レクリエーションや清掃、美化活動等の写真を載せた「あおいしんぶん」を作成し、ホームでの利用者様の表情や楽しそうに生活されている様子を家族様等に情報発信されるなどし、入居者様が不安なく生活されている様子を伝えることで家族様に安心していただくように事業所で取り組まれています。また、重度化した場合でも最期までホームで過ごせるような体制を整えるなどご本人や家族様等のご意向にできるだけ副えるような支援に努められています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「気持ちに向き合い寄り添う」「その人らしいあり方を大切にす」「切れ目なく望む暮らしを支える」を理念とし、ホームで過ごしたいと思える声掛けや、その人らしく生活できるよう職員間で共有し実践に繋げている。	理念は玄関に掲げられており、職員は出勤時に目にする事で共有し、意識することで日々のケアの中に活かされています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の状況からボランティアの受け入れはできなかったが、新聞の配布や社協、他施設ケアマネ様との電話での情報交換などを行い、地域とのコミュニケーションを図っている	毎月作成、更新されている梅香丘温泉GH新聞を各施設や病院に配布し、日頃のホームの活動や様子をお知らせするなど地域との交流を図られています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一時期のコロナの状況が落ち着いていた時は、面会も休憩室などの別室を使い行っていた。現在はまた感染が増加している為面会を控えている事を家族様に説明し理解して頂くように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面での運営推進会議は中止しており、書面で報告を行っている。家族様・地域の方々には常日頃から何か疑問・相談があれば対応できる体制を取っている。	コロナ禍の今は運営推進会議は書面で奇数月に行われています。事前に家族様や地域や市町村などから出された意見をもとに対策・対応をホームで話し合いサービスに活かされています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者様には入居者様の状況・現状報告を行い、相談等もしながら助言を頂きサービスケアに取り組んでいる。	市町村との連携は運営推進会議でも行っているがそれとは別に入居者様の現況報告なども行い密に連携を取られています。またコロナ対策についても連絡を取り合うなど協力関係を築かれています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	職員間で身体拘束について話し合い、理解を深め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者様に対しての言葉遣いも日々気を付けている。	日々のケアの中で管理者はじめ役職者が気になったケアについては職員に頭ごなしではなく、職員目線で分かりやすいように話し、お互いに理解を深めながら身体拘束をしないケアに取り組まれています。	管理者や役職者が身体拘束に理解を深めてもらえるように日々努められています。今後ホームで定期的に研修の機会を作るなどし、身体拘束や虐待に関しての知識を職員が得ることで更に入居者様の生活が豊かになることを期待します。

7	<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待が行われていないか利用者様の身体面や精神面について注意深く観察している。職員についても言動に注意を払い、ストレスをため込まないよう普段からコミュニケーションも取っている。</p>		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見人制度を活用されている方がおり、必要性を学ぶ機会となっている。常時、後見人様との連携も行っている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時にはサービス内容、個人情報の取り扱いなどについて十分な説明を行い、理解や納得をしていただけているよう努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族様に対してはコロナ禍である為、電話連絡にて情報交換を行い、意見や要望を聞く機会を設けている。利用者様とは日々の生活の中で信頼関係を築いている。</p>	<p>コロナ禍で面会を制限されていますが、月に2回ある往診結果など何かあるごとに電話連絡をし家族様のご意見やご要望を伺い、それらを運営推進会議などで取り上げ反映させています。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>職員とは常にコミュニケーションを取り、提案や意見を言い合える雰囲気や関係を築いている。職員の意見や提案に耳を傾け、それぞれが工夫したことを現場で反映できるように努めている。</p>	<p>管理者や役職者は職員とのコミュニケーションも大切にしており、時間をかけ丁寧に接しています。また話すだけでなく管理者や役職者は自ら実践し、言動で相談しやすい関係を築いています。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員個々がそれぞれの能力を生かして生き生きと働くことができるような環境作りを心掛けている。職員のストレスや疲労を減らせるように、日々のコミュニケーションも大事にしている。</p>	
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>日々の勤務状態から職員一人一人のケアの質や力量を把握するように努めている。施設内での勉強会なども企画しながら、個々のスキルアップに繋げている。</p>	
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>電話での聞き取りを行い、意見交換を行いながら今後も電話相談を中心に連携に努めている。</p>	

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談等で、不安なことや困っていること、ケアの要望などをお伺いしている。GHでの取り組みを説明しながら、ご本人が安心していただけるように配慮している。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にケアマネジャーが、電話や訪問での面談で家族様との不安な事や要望をお聞きし、把握に努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族がまず何を必要としているのかしっかりアセスメントを取り、そこに基づいたケアプランを作成し、必要な支援や他のサービスの利用も検討しながら日々のケアに活かしている		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの経験や知識を活かせるようにアセスメントを行い、本人の持っている力を発揮できる場面を作り、家事や仕事を分担している。		
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その時々に応じて家族に連絡を行い、本人の状況や要望を伝え、情報を共有し本人が喜ばれる支援を行っている。家族様の要望もお聞きし、共に本人を支えていけるように支援している。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	今まで本人が歩んできた生活を尊重し慣れ親しんだものを大切にしている。ドライブや散歩などをして見慣れた景色を見てもらうようにしている。	コロナ禍で面会は中止している現状ですが、馴染みの人や場の継続を意識し、ドライブや散歩をするなど支援されています。また高齢者にとってはリモート面会よりも電話で話される方が慣れ親しんでいるので電話での馴染みの関係の支援もされています。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が親しく交流できるように利用者同士の相性を見極め、職員が間に入って支援している。孤立しないように人間関係を把握している。		
22	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在はコロナ禍で、以前のように直接的に退去された方の病院や施設に面会に行ったり家族様との交流は控えているが、出来る範囲で経過を把握し病院や施設・ご家族様との必要な支援に努めている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の会話や様子・表情などを職員がよく観察しながら思いを汲み取り、本人の思いが見えた言葉や仕草などを記録に残し、ケアの統一と情報の共有にて本人の希望や意向に沿うようにしている。</p>	<p>日常のケアの中で会話、表情からや「15の窓」という独自のシートを活用し意向等の把握に努められています。またその意向は全体ノートに記し情報共有を行いケアの統一することで希望等に副うようにされています。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人、家族様から、生活歴や馴染みの暮らし方、環境などの情報収集を行い、本人が望む暮らしがグループホームにて継続できるように努めている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>日頃の関わりの中での気付きや変化、出来ることなどの情報を日々の申し送りで職員全体に共有し、その上で職員本位にならないように努めている。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>カンファレンスで意見を出し合い、本人・家族の思いや意向を可能な限り取り入れたケアプランとなる様に努めており、日々の見守りの中での気付き、アイデアについても検討し作成している。</p>	<p>モニタリングは月1回行われ、そのモニタリングの結果を受けてケアプランの見直しを通常は3ヶ月に1回されています。ただし家族様の要望や利用者様に状態の変化等があった場合は随時見直しを行い、ケアプランに反映されています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>職員全体で情報を共有できるよう、行動、言動、症状変化や状態を個別記録し、記入している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人・家族の状況に応じて施設内で意見を出し合い、満足して頂ける支援を心掛けている。随時対応できるような柔軟な支援サービスが提供できるように取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>外部との交流や外出等は出来なかったが、施設内でのレクや畑での収穫作業、美化活動にも参加して頂き、本人の力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしを楽しめる事が出来る様に努めている。</p>		

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>基本的には入居前からのかかりつけ医を継続しながら、利用者様が適切な医療を受けられるように支援している。月に二度の往診も行っている。</p>	<p>協力クリニックの往診や、定期的な訪問看護サービスもあり、充実した医療を受けられます。また以前からのかかりつけ医の受診も可能で、家族が支援出来ない場合でも、施設職員が受診の付添い・送迎を行っています。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>かかりつけ医の看護師とも連携を取り、相談しながら利用者様の健康管理に努めている。週に一度の訪問看護でも健康状態を報告し、気になることがあればその都度相談している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>現状は面会は制限されているが、入院時にはサマリーを提出し、病院へ情報を提供している。医療機関や地域連携室と定期的な連絡を行い、情報交換している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居の際には家族様に看取りの説明を行っている。かかりつけ医や協力機関と話し合い、共に本人や家族様の希望にできる限り添えられるような支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時に本人や家族の終末期に対する意向確認を行っています。協力医療機関と密に連携を図り、重度化しても、最期までホームで過ごす事ができるような体制を整えており、入居者やご家族の安心につながっています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時対応マニュアルを作成しており、どの職員でも対応できるように普段の話し合いやシュミレーションを行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>ホール、事務所に災害時の避難場所を掲示し、職員の役割分担を明確にしてスムーズに誘導できるようにしている。</p>	<p>日頃より、火災や水害に対して、しっかりと職員間でシュミレーションをされたり、レクリエーションの一環で入居者の避難誘導をされています。また、備蓄についても食料や必要物品の用意がされています。</p>	<p>コロナ禍の為、消防の立会いの下での訓練は、難しいと思いますので、ホーム独自の自主訓練を実施されることを期待します。まずは、夜間を想定した訓練を実際に行ってみてはいかがでしょうか。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者様個々の人格を尊重し、プライバシーの確保に努めている。一人一人に合った言葉掛けや対応を心掛け、排泄や入浴についても、プライバシーに配慮し環境を整えている。</p>	<p>入居者一人ひとりの生活歴に合わせ、家族とも相談し、声掛けの仕方や対応の工夫をされています。またスタッフに不適切な言動がみられた際には、職員間で注意し合い、その場で改善に向けた取り組みを行っている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>一方的に職員が決めるのではなく、日常生活の中で一人一人の力に合わせて言葉掛けをし、自己決定してもらっている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日の生活リズムは職員本位ではなく、利用者様の体調に配慮しながら、その時の本人の気持ちを尊重し、個別性の支援を行っている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>その人に合った身だしなみやおしゃれが出来る様に支援している。お化粧をされる方には馴染みの物を使用して頂いたり、着替えの際には利用者様と一緒に服を選んでおしゃれを楽しんで頂いている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>季節の食べ物を提供し季節を感じて頂き、美味しく食事ができるように支援している、畑で収穫した作物を使って調理し職員も同じテーブルで食事をしてコミュニケーションを取っている。</p>	<p>食事は外部委託されているが、入居者と一緒に盛り付け等は行っている。ホームの畑で収穫した季節の野菜を使い、食事の際に提供されています。入居者の希望メニュー(お寿司やなま物)を委託会社と相談し取り入れてもらっています。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一人一人の好みや嫌いな食べ物等を把握し、食事量や水分量も記録に残しており、苦手な食べ物がある時にはその人によって代替えのおかずを提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアをしっかりと行っている。夕食後には義歯を預かり、個々のケア用品にて洗浄している。</p>		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員は個々の排泄パターンを記録などで把握し、トイレ誘導している。万が一、排泄に失敗した時でも自尊心を傷つけることなく、羞恥心やプライバシーに配慮している。	トイレでの排泄を念頭に、その方に応じた排泄介助を行っています。24時間のチェック表を活用して、排泄サイクルを把握し、一人ひとりの生活リズムに沿った支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の排泄記録を見ながら、できるだけ自然排便が出来るよう取り組んでいるが、便秘傾向にある方は、主治医と相談し下剤を服用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	自宅での入浴のように、本人様に合わせた湯加減や、個別でシャンプーも好きな物を使って頂いている。入浴を好まない方には、体調・気分を配慮したうえで声掛けを工夫し、入浴して頂く。	重度化しても入浴してもらえるよう、3方向から介助ができる浴室の工夫がされています。温泉水を取り入れ、心地よい入浴への工夫や配慮をされています。また、希望される方には、同性介助を実施しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節により室内の温度に注意を払い、本人の状態に応じて温度調整をしている。自宅で使い慣れた布団を持参していただいたり、ゆっくりと安心した気持ちで休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の病状の理解に努め、用法や容量を個別に確認している。体調の変化があれば主治医と相談し確認している。服薬拒否がある場合は声掛けを変え、服薬していただくよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と共に、洗濯畳みや掃除、テーブル拭きなど個々の得意なことを活かし、役割ある活気ある生活を送れるよう支援している。普段も塗絵や読書をされたりと、楽しく過ごせるように努めている。		

49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>コロナ禍でも可能な限り、散歩やドライブなど三密回避を徹底しつつ、気分転換を図っている。買い物は職員が代行して行っている。</p>	<p>コロナ禍で気軽に戸外へ出掛ける事は難しいがドライブ等の外出支援をされ、その時の希望に合わせて行き先を設定し出掛けている。日常的には4か所あるテラスにて、おやつを食べたり、ガーデニングするなどストレス発散や気分転換を図られています。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在は職員が買い物を代行して行っている。基本的には事務所で保管しており、ご本人様の所持金で希望に応じた買い物を行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>年賀状や暑中見舞いなど、季節の絵手紙をご家族様やご友人に出されたり、利用者様の誕生日にはご家族様からの手紙をお渡ししている。遠方の親類から電話なども繋いでお話しいただいている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関及びホールには季節の花を飾ったり、季節を感じられるように、正月飾りやクリスマスなど飾り付けを利用者様と一緒にしている。</p>	<p>リビングには、ソファやマッサージチェアがあり、それぞれにお話しをしたり、うとうとしたりとくつろげる共用空間となっています。またホーム内は季節にあわせた飾り付けがされています。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合った方同士でくつろげるように、同じテーブルに座って頂いたり、思い思いに過ごせるよう座る場所の制限はかけずに支援している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具や馴染みのものを持ち込んでいただき、居心地よく過ごせるよう努め、部屋の片付けもご本人と行い、慣れ親しんだ空間作りを心掛けている。</p>	<p>使い慣れた家具や仏壇などの持ち込みも自由で、居心地の良い自分らしい居室環境が保たれる様に配慮されています。また、布団で寝たい方にも対応するなど、その人らしく過ごせるよう配慮をされています。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>わかりやすいようにホールに案内板を掲示し、わからない場合には声掛けや誘導を行い見守りしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない